

第 49 回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録

開催日時:平成 28 年 4 月 28 日 16:00～

開催場所:東京都港区北青山 3-1-2 USEN 本社

**■出席者**

湯川 れい子 委員長

富澤 一誠 委員

品田 英雄 委員

笈川 誠 委員

■欠席者

大林 宣彦 委員

■局側出席者

田村 代表取締役社長

大田 取締役常務執行役員

鈴木 顧問

山下(光) コンテンツプロデュース統括部長

松本 コンテンツプロデュース統括部 編成部長

村田 コンテンツプロデュース統括部 制作部長

西田井 コンテンツプロデュース統括部 制作部 制作 1 課長

山下(幹) コンテンツプロデュース統括部 制作部 制作 2 課長

遠藤 番組制作ディレクター

小島 番組制作ディレクター

大森 番組制作ディレクター

瀬戸 コンテンツプロデュース統括部 編成部 編成課長

沖 広報部長

【番組審議会事務局:薬師寺、森角】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告

(1) 福島県の小中学校へのBGM・音響設備寄贈について

被災地支援の一環として福島県双葉町、楡葉町、大熊町の小中学校・幼稚園 11校へBGM・音響設備を寄贈した。

(2) 訪日外国人女性向け宿泊施設『NADESHIKO HOTEL SHIBUYA』の開業について

2016年4月、訪日外国人女性をターゲットに大浴場やギフトショップ、居酒屋『OISHI KOMACHI SHINSEN』を併設した女性専用カプセルホテルを開業した。

(3) 番組改編について

2016年4月1日、番組改編を実施。「B-71 J-POP ステーション」、「I-59 ハワイアン・レゲエ」の2つの新番組を投入したほか、7番組をリニューアル、2番組を終了した。

(4) 追悼特別番組の放送について

2016年2月6日より、モーリス・ホワイト氏「アース・ウィンド&ファイアー モーリス・ホワイト追悼特別番組」を、同3月15日より、キース・エマーソン氏「キース・エマーソン追悼特別番組」を、同4月22日より、プリンス氏「プリンス追悼特別番組」を放送した。

(5) 『With Music』発行について

2016年3月、会報誌『With Music vol. 35 (2016年4～6月号)』を発行し、業務店/個人宅のお客様にお届けした。

2. 審議課題

医療施設をターゲットにしたBGM番組について

【対象番組】

■C-20 ミュージック・セラピー ～心の癒し～

■A-12 やさしいクラシック

■H-11 スロー・ジャズ

3. 番組審議

【放送局】

今回は医療施設、特に一般診療所の待合室をターゲットに想定し、「C-20 ミュージック・セラピー ～心の癒し～」、「A-12 やさしいクラシック」、「H-11 スロー・ジャズ」の3番組について審議して頂きたい。

【審議委員】

今回の3番組の中では、「C-20 ミュージック・セラピー ～心の癒し～」に最も驚いた。まず、知らない名曲がこれほどあるということに驚いた。その一曲一曲の演奏も素晴らしく、よく探してきたものだった。手をかけていることが伝わった。穏やかな気持ちになるし、それこそ“癒し”だ。ただ、ずっと聴いているうちに、音楽によって「話してはいけない」という空気が出てくるかも知れないと思った。落ち着けば落ち着くほど、そういう空気が出るものなのかも知れない。クリニックの待合室を想定しているのもそれ狙いかも知れないが、そういう気づきがあった。

「A-12 やさしいクラシック」については、クラシックだから古典なのだが、古臭く聴こえなかった。生き生きとしていながら、邪魔にならない楽曲が選曲されていたからだろう。「花のワルツ」などポップでメジャーな楽曲も入っていたが、気持ちの良い印象だった。

「H-11 スロー・ジャズ」はやはり最も夜の匂いがするし、どうしても色が出るのでつい(BGMとして聴くのではなく)聴き入ってしまう。今回の3番組は一般診療所で人気の番組から選んだということだが、ジャズも人気があるのか？

【放送局】

一般診療所では従来クラシックやオルゴール、ヒーリング・ミュージックがよく使われてきたが、近年は「H-11 スロー・ジャズ」のほか、「C-11 ラヴバラード 洋楽」や「C-17 スロウ・ボサノヴァ ～シエスタ～」といった、これまでは小売業や飲食店などでよく使われると想定していた音楽も使用されるようになった。

【審議委員】

なるほど。それを踏まえて2つ提案をしたい。1つは、ヒーリング・ミュージックは音楽マーケットでは90年代に非常に流行ったが、古くなり始めている感は否めない。ヒーリング・ミュージックというマーケットがなくなるということはないし、もうダメだと言う気はないが、次のもの(音楽)を探せたら面白いのではないか。今回の3番組の中で最も広がりや明るさを感じたのはクラシックだったが、それには録音の仕方、部屋の反響のようなものも影響している。「C-21 ミュージック・セラピー～心の癒し～」や「H-11 スロー・ジャズ」は極めてパーソナルなところで、すごく狭まって聴こえ、空間的な広がりを感じなかった。そのため、隣りの人と話しづらいような雰囲気になるのではないだろうか。“癒し”というのは極めて個人に寄るものだったが、今は、人と繋がったり、広がるということが求められる時代になっている。そこに軸を立てたなら、どのような選曲になるかを知りたいと思った。

もう1つは、これらの番組はとでも手をかけて、一曲一曲意欲を持って選曲されていることが伝わるが、オーバースペックかも知れないということ。私自身、ものづくりにおいては「手をかけるのが良い」と思っているが、職人的なものばかりではなく、AIという手もあるかも知れない。例えば、「アルファ碁」では名人にAIが勝つ時代になっている。選曲においても、今は人がすごく手をかけているが、AIによる選曲もやってみて、両方をリスナーに聴いてもらって、リスナーが判断するというのもやってみると面白いと思う。かつてFM局で自動送出をやって、それは評判が良くなかったようだが、AIを選曲でも活かせるか新しいものができるのではないか。例えば、学校に依頼してコンペをしてAIを作るのも良いだろう。

一般診療所も新患の時は不安感が大きいですが、通っているとそんなに暗い気持ちでもなかったりするので、“癒し”とか“ホッとする”だけではなく、もう少し明るい空気の方が良いこともあるだろう。医療向けパッケージにするということではないが、マトリックスを描いて、作って行くと良いと思う。

【審議委員】

簡単にだが、医師にアンケート調査をしてみてわかったことがあるので、それをお伝えしたい。まずは、思いのほかBGMを流さない医院が多かったこと。それは逆に言えば、USENにとってチャンスということになるだろう。次に、BGMを流している医院では院長が選んでいる場合が多く、クラシックが多かった。実際、USENを使っている一般診療所でも「A-12 やさしいクラシック」の人気の高いようだが、私が思うに、お医者さんはわかっていないのではないか。“やさしい”という言葉にお医者さんが反応しているだけであり、本当に患者さんがそれを欲しているかは別の次元の話ではないだろうか。患者さん側から「この曲は良くない」とか「この曲は嫌だ」と言うこともおそくないだろう。私自身も病院にBGMの感想を言ったことはない。以前、美容室をターゲットに想定した審議会の時にも今回と同様にアンケート調査をしたが、美容室で

はお客様のフィードバックをかなり取っていて、マーケティングリサーチに基づいてBGMも選んでいた。しかし、お医者さんはまったくやっていないようだ。そこはUSENの営業的には“攻める材料”になるのではないだろうか。ほかに一部の意見としては、これは看護師さんの意見だが、患者さんが元気になってくるとだんだんアップ・テンポの曲をかけるなど意識して選曲しているというもあった。また言いにくいですが、患者さんに最期が迫っている時や内視鏡検査をする時などは音楽をかけるという意見もあった。内視鏡検査をする時などはやはり恐怖心の緩和ということだろう。そういった一部の意見もあったが、やはり院内では「BGMをかけない」という回答が多く、かけている医院でも選曲は院長の趣味でというところが多かった。

【放送局】

かけないというのは無音ということか。

【審議委員】

待合室などは無音で、院長先生は院長室があるので、そこで好きな曲をかけているそうだ。患者さんに合わせるという発想ではなく、自分にドライブをかけるために好きな曲を聴くということだ。

今回の審議対象番組についてだが、私は仕事場で「H-11 スロー・ジャズ」をよくかけているが、午前中から夕方までかけていても邪魔にならない。昼間に「A-12 やさしいクラシック」をかけると、どうしても睡魔が勝ってしまうということがあった。「C-21 ミュージック・セラピー ～心の癒し～」は、私は元々ヒーリング系の音楽が好きでルドヴィコ・エイナウディなども好きだし、一番はまった。この番組で流れる西村由紀江さんや溝口肇さんなどの曲は“Shazam”で調べられない。先程、AIの話が出て面白いと思ったが、逆に言うと、「Selected by ○○(番組ディレクター)」ということを出すと、ユーザーにも思い入れが出てくるのではないだろうか。著名な方のセレクションというのも良いとは思いますが、USENの中にこんなプロフェッショナルがいて、その担当が選曲しているということを伝えるというのも面白いと思う。アンチAIではないが、独自の色を出していくという感じも良いのではないかな。

【審議委員】

それは面白いと思う。

【審議委員】

医療施設というと大抵“癒し系”となってしまう、今回の資料にある「医療施設で人気の番組リスト」にも歌入りの番組がないが、必ずしもそうでなくても良いのではないだろうか。溝口肇さんも岡崎倫典さんも素晴らしい曲を出しているが、一般的に広く聴かれるかと言うとあまり聴かれていないと思う。そうした素晴らしい曲が届けられ、広がることは良いことだが、医療施設だからこういう音楽と決めつけるのではなく、挑戦しても良いのではないかな。例えば、日本の歌と言うと抒情歌があるが、井上陽水さんの「少年時代」などは新しい叙情歌ということもできる。そういった誰もが知っている“癒し系”音楽のチャンネルが一つあってもおかしくないのではないかなという感じがした。

【審議委員】

私は長くミュージック・セラピーに関心を持って携わってきたが、今回「C-20 ミュージック・セラピー ～心の癒し～」に最も驚いた。その理由は、先ほど別の方も言われていたが、古さが全然なかったということ、そして“Shazam”にかざしても全然わからなかったことだ。アルバムの中から一曲一曲、時間をかけて選んでいるのがわかった。「耳障りさえ良ければい

い」というようなヒーリング・ミュージックとは違い、個性の際立つ曲や演奏もあったが、それが良かった。思いもかけずチェロの溝口肇さんが入っていたり、ウォン・ウィンツァンさんのピアノ曲が入っていたりした。ウォンさんはアドリブ主体で弾いている方だが、その中から番組コンセプトに合うような比較的落ち着いた楽曲を選んでいたのもすごいと思った。とても面白く聴かせて頂けたし、「ミュージック・セラピー」などと言わず、どのような空間でかけても良いと思った。

私も定期的に行く病院やクリニックがあるが、やはり無音か、院長先生の好みでかけるところが多く、院長先生の好みが見えに出る。院長先生の好きなジャズやクラシックのCD3枚くらいを一日中かけまわしていたりする。それでも済んでしまうから、なかなかUSENにまで手を出してくだらないのだろうが、ではどう切り込んでいけば良いかということ、やはり“待合室向け”の音楽ということになるだろう。お客様(患者さん)がリラックスできる音楽をエビデンスをもっておすすめするなど。他にも「こういう年齢層にはこの音楽が良い」とか、「お子さんが一緒に来る医療施設におすすめの音楽」とか、それぞれのお客様(患者さん)に合った提案ができるが良いと思う。

「A-12 やさしいクラシック」も「H-11 スロー・ジャズ」も本当に丁寧に、時間をかけて選曲されているのが伝わり、とても良かったと思う。

【審議委員】

今回の想定場所からは外れるが、調剤薬局ではテレビが置かれている場合が多い。それも手の届かない高いところに。調剤薬局は待たされる場合も多いから、落ち着くBGMがあっても良いのではないだろうか。

【放送局】

調剤薬局は今回の想定場所ではないが、広義では医療施設に入るといえるだろう。調剤薬局の窓口での会話では薬の説明など個人情報もあるため、内容を他の人に聞かれないようにマスキングする音が必要だと言われる。一方、バックヤードではどうしても調剤ミスが起こるため、集中力を高める音楽が求められたりする。先ほど出た“エビデンス”という言葉など昔は意識していなかったが、今はそれが求められるようになっている。USENでも研究し始めているが、有効なエビデンスを出すことができれば、調剤薬局などももっとご加入頂けるかも知れない。

「C-20 ミュージック・セラピー ～心の癒し～」について、「話してはいけない」という空気を感じたというご意見があった。今回は想定場所が医療施設なのでそれほど会話をする場所ではないとは思いますが、もし緊張をほぐすべきBGMが緊張感を生んでいるとするならば、(この番組の音楽には)温かみがないのか、冷た過ぎるのか…とも思った。そのような印象を与えているのだろうか？

【審議委員】

それは誇張して言ったのであって、決してそういうことではない。確かに落ち着くし、良い番組だ。ただ、もし私とその医療施設に通うことになったとしたら、それは日常生活になる。そうなったら、必ずしも静かではなくても良いのではないかと考えた。ケースバイケースで患者さんによっても違うだろうが、例えば、お年寄りの方などは病院慣れしていることが多かったりする。定期的に通うことを考えると、落ち着くばかりでなくとも良いのかなと思う。

【放送局】

“個人に対する癒し”と複数の人がいる“空間に対する癒し”というのはひょっとすると違うものなのかも知れない。

【審議委員】

今はスマートフォンでどこでも音楽が聴けるようになり、音楽が非常にパーソナルなものになった。待合室という空間には外に広がる音楽の方が合うのではないかと思う。

【審議委員】

診療所からは離れるが、携帯ショップの待合室も長時間待たされるケースが多いうんざりする。音楽がかかっていることもほとんどなく、高いところに置かれたテレビがごく小さい音量で放映されていたりもするが、音が聴こえないからつまらないし、良い音楽をかければいいのにとと思う。一年に二回程度しか行かないが、とにかく待たされる時間が長いので本当に退屈だ。待合室という意味では診療所も携帯ショップも同じではないだろうか。強制的にそこに居なければいけない状態で、「いつ呼ばれるのだろう」、「何番まで来たのだろう」、「もう少しだから外に出るわけにもいかないな」などとあれこれ考えてしまうが、そんな時間の中で、「落ち着く音楽がかかっていたら良いのにな」と思うことがある。時には J-POP などが流れても良いのではないかと思う。

【審議委員】

「待合室」チャンネルを作っても良いのではないか。(一同同意)

【放送局】

ジャズはよく“わかりやすいジャズ”と“難解なジャズ”というように表現されるが、「H-11 スロー・ジャズ」を選曲する際はその辺りのバランスについて若干悩むことがある。番組をお聴き頂いていかがか。

【審議委員】

トリオやカルテットなど小編成の演奏の中から細やかに選曲されていたので非常に良かった。掛け合いのかなり激しいジャズだとちょっと違うと思うが、耳に心地良い楽曲でありながら演奏も確かな楽曲を本当に細やかに選んでいたと思う。

【放送局】

一日中ジャズを選んでいると時々スタンダード曲にお腹がいっぱいになることがある。アーティストは異なっても同じ楽曲がたくさん出てくると、聴いている方、特にジャズに詳しい方は嫌気が差したりしないものだろうかと思うこともある。特に今回想定しているような待合室や緊張する空間では、「ああ、また流れた」などと思われたりしないだろうか。

【審議委員】

ジャズの場合は同じ楽曲でもそうは思われまいだろう。1時間に3回も流れないだろうし。ヴォーカルのポピュラー・カバー楽曲が何度も出てくるとそう思うかも知れないが、ジャズではそれほど気にならないのではないかと思う。繰り返しになるが、ジャズの場合、気になるとしたらむしろ掛け合いだ。待合室だと落ち着いて聴いていられる楽曲が有難い。

【放送局】

本日も多くの気づきがあった。医療施設向けというと、おとなしくしなければいけない、清楚でないといけない…と思いついていたかも知れない。番組を制作する際には、「似たイメージの楽曲を揃えなくて」と思うあまり、過度に均一化してしまうこともあるが、もう少し広がりを持たせることも考えてみたい。「待合室用」のBGMも作ってみたいと思う。また、ヒーリングやミュージック・セラピーの次の言葉を我々が創っていても良いのかも知れないし、選曲者(ディレクター)名を出すか

出さないかは別としても“USENの選曲”をもっとアピールしても良いのではないかとこのころも考えたい。
エビデンスという言葉もあったが、音楽が人に与える影響についてはここ数年、検証を始めたばかりだ。この分野は今後ますます追及し、趣味や雰囲気づくりのためのBGMばかりでなく、明確な目的や意味を持つBGMも提供していきたいと思う。